

鐘楼

近代以前、時計が一般的ではなかった時代に、寺院の鐘は重要な役割を果たし、時間の共同指標となっていた。中国の計時慣行に従って、1日を12に分割する伝統的な寺院の鐘は通常2時間ごとに鳴らされた。また、鐘は新年のお祝い、お祭りなどの特別な日や、火災の発生など、危険を知らせる必要があるときにも鳴らされた。

圓教寺の鐘楼は傾斜したピラミッド型の台座の上にある。これは、袴を着用している人のシルエットに似た格好で袴造と呼ばれている。下から履く伝統的な服である袴で乗馬するときに着用する。基部のすぐ上にあるかみ合わせ支えの基礎は、構造の実質的な重量を均等に分散させ、周囲の露台を補助するように設計されている。瓦葺の屋根の軒下にも同様の組み合わせ支えが見られる。鐘楼内部の青銅製の鐘は、仏教の象徴である龍や蓮の花などで華やかに装飾されている。鐘は銘刻されていないが、そのスタイルの特徴は1324年頃に鑄造されたことを示唆しており、兵庫県で最も古く、日本で最も古い鐘の1つとなっている。鐘楼自体はおよそ1332年にさかのぼり、さらに初期の構造の再建と考えられている。鐘楼は国の重要文化財、鐘は兵庫県の文化財である。